

# 食料支援学生の心むすび

## 広がる人の輪

### 高知

高知県の学生食料支援活動は日本民主青年同盟など

「ぼくとまんぐろロジエクト」として、昨年5月に高知大学前でスタート。これまでに、県内の会場に広がり、月に10回ほど、合わせて91回開き、延べ3172人(9日現在の学生が利用しています)。「何か手伝いたい」と約50人の学生がボランティアに参加しています。

最初の食料支援に参加した高知大学1年の男子学生は「少ないスタッフの方が、たくさんの方に対応して、大変だなと思

「それまでは学生どうのつながりが一切なく、食料支援がなければ今の私はいません。食料支援は学生の食を支えるだけでなく、学生同士が関わる大切な居場所として多くの学生を支えています」と述べるとも、「本来は国や県が学生を支えるべきだと思います」と語りました。

「ただ、食料をもらうだけでは申し訳ないと思い、何か手伝いたい」とボランティアに参加しました」という1年の男子は「学生と交流できるのに加え、スタッフの方や地域の方に、大学の授業のことや、生活で困っていることを身近に相談できることがありがたい」と話します。

「去年11月にはスタッフとボランティアの意見交換会を開き、今後の運営などについて話し合いました。今月10日にはレクリエーション

ンも取り組まれ、香美市の観光名所の洞窟を散策し、公園で食事をして交流しました。

「一気には友だちが増えましたが二人になって高知にきたことを後悔した時もありましたが、ボランティアに参加して、大切な友だち

### 山梨

## 回を重ねる声増え

「ぼくとまんぐろロジエクト」は、これまで7回実施され、学生や若者に

「バイトを禁止されてできない(42・50)」「親の収入が減って苦しい(13・8)」といった声が回を重ねるごとに増え、学生の深刻な実態が見えてきます。



食料品を受け取りに来た学生ら11月12日、高知市

アンケートに答える学生たち11月23日、甲府市

甲府市など山梨県内で行われている学生食料支援活動

「バイトを禁止されてできない(42・50)」「親の収入が減って苦しい(13・8)」といった声が回を重ねるごとに増え、学生の深刻な実態が見えてきます。

また、2度にわたって学生実態アンケートを実施。昨年12月から今年2月に行ったアンケートには233人が回答。アルバイトが減るなどして前期より経済面でも精神面でも学生の状況が悪化していることが浮き彫りになり、学費値下げを求める声が多く寄せられました。民青県委員会はこの結果を県庁で記者会見をして発表。その後、県議会の各会派を回って、伝えました。(高知県・浦津一)

「実習を受け入れない、人数制限などで自分の思うようにできなくて不安(保育科1年生)」などの意見が寄せられ、回答者の95・1%が「学費半減」の要求に賛成しました。「コロナ対策で政府に対し、10万円の緊急給付金の支給を求める声も多数あり、「時短営業でシフトが減って収入減。要請をすれば困っている人がいるから補償をしてほしい」(20歳)、「Qo Toとかじゃなく、困っている人に支援金を配ってほしい(21歳)」などの要望が出されました。企画については「いいイベント。楽しい」「コロナで孤独を感じてきた。人と集まる機会にもなりリフレッシュできた」など交流の場になりました。「自分もボランティアに参加したい」と答えてくれた学生は20人に上りました。(山梨県・渡辺正好)